

【テーマ3:ICTを活用して効率化を図る「新たな教師の学びの姿」の追求

～「児童の認知特性に応じた教師のふるまい」研修を手がかりとして～】



成果報告ムービー

【東京学芸大学】

研究協力校 東京学芸大学附属小金井小学校
小金井市立南小学校
協力委員会 東京都小金井市教育委員会
協力企業 コニカミノルタ株式会社
ハイラブル株式会社

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 教師と管理職が授業後のふり返しを行う際、そのベースとなる資料が貧弱である。
- ◆ 教師も管理職も自身の経験や直感に頼って対話を行いがちである。

研究テーマ

- ◆ ICTを活用した授業における適切な現状把握手法の確立
- ◆ ICTを活用して測定した授業データを元にした授業者との対話手法の確立
- ◆ 教員研修モデルケース構築とオンライン研修可能なコンテンツの製作

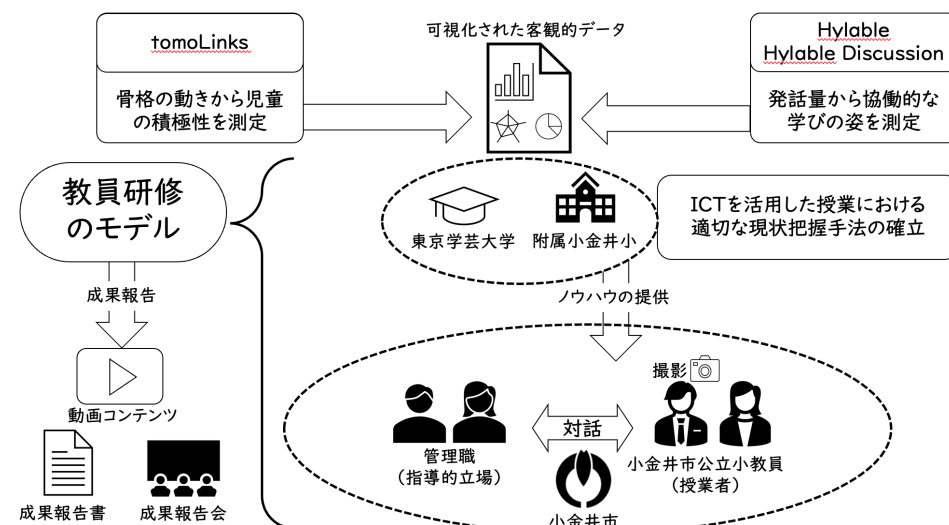
モデルの概要

- ◆ 授業における話し合いを先端機器を活用して測定。
- ◆ 可視化された結果を元に管理職と教員が対話。
- ◆ 補足資料として授業者はアクションカムで教員が話し合いに介入したグループの様子を撮影

活用する技術・ツール等

tomoLinks(コニカミノルタ社)
Hylable(ハイラブル社)

高度化に資する取組



東京学芸大学附属小金井小学校でICTを活用した授業における適切な現状把握手法を確立し、そのノウハウを公立小に提供。実際に同手法を用いた授業とその後の教師と管理職の対話を通して教員研修モデルの実効性を検証。

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ 教師と管理職が、可視化された客観的データを元にして対話を行うことで、研修の充実を図ることが期待できる。
- ◆ 児童の対話を測定・可視化するシステムには改善の余地があるが、測定システムの診断が間違っている場合でも、その間違いを確認することが教師と管理職の対話を促進するので、正誤はともかくデータがあることが重要。
- ◆ 測定システムの簡易化により、多くの学校で導入可能。